

## 添付資料 目次

資料1	観光まちづくり学部観光まちづくり学科 3 ポリシー関連図	・・・P2
資料2	観光まちづくり学部観光まちづくり学科 カリキュラムツリー	・・・P3
資料3	観光まちづくり学部観光まちづくり学科 カリキュラムマップ	・・・P4
資料4	履修モデル	・・・P9
資料5	「観光まちづくり演習ⅠⅡⅢ」の学修の体系	・・・P15
資料6	観光まちづくりの4つの分野・アプローチと開講科目の対応関係	・・・P16
資料7	「観光まちづくり演習ⅠⅡⅢ」のシラバス	・・・P17

## 学位授与の方針

ディプロマ・ポリシー

観光まちづくりの視点から活力あふれる地域を実現するための方法論を構築するとともに、その実践を担う人材の養成を目的とし、以下の能力を身につけるために設けられた教育課程を履修して所定の単位を修得した者に「学士（観光まちづくり）」の学位を授与します。

卒業時

### 知識・技能

**DP-A1** 多様な現代社会を理解する深い教養を身につけ、観光や交流が地域にもたらす影響を多角的・批判的に理解している。

**DP-A2** 地域の課題解決に向けて、地域をとりまく社会構造や社会意識の様態、資源の特性を理解し、観光まちづくりの方策としての政策・計画及び交流・産業に関する知識を身につけている。

**DP-A3** 観光や交流を通じた活力あふれる地域の実現に向けて、具体的な地域の特性や課題を的確に把握・分析できる。

### 思考力・表現力・判断力

**DP-B1** 学修した知識や技能を活用して、具体的な地域を対象とした観光や交流に関する施策の可能性と、それらが活力ある地域の実現にどのように貢献するかについて、理念と根拠に基づき自らの考えを述べるができる。

**DP-B2** 自らの考えや他者に伝えたい事実について、その実証的根拠を明らかにして、口頭説明や文章、図表、造形物等によって表現し、適切に伝えることができる。

### 主体性を持って 多様な人々と協働して学ぶ態度

**DP-C1** 社会の多様性を尊重し、様々な文化的背景を持った他者との共同作業や対話を通じて自分の考えを深めることができる。

**DP-C2** 学修した知識や技能を活用して、現実の地域社会に働きかける実践的な態度で学ぼうとする。

## 主な教育課程編成方針

カリキュラム・ポリシーより抜粋

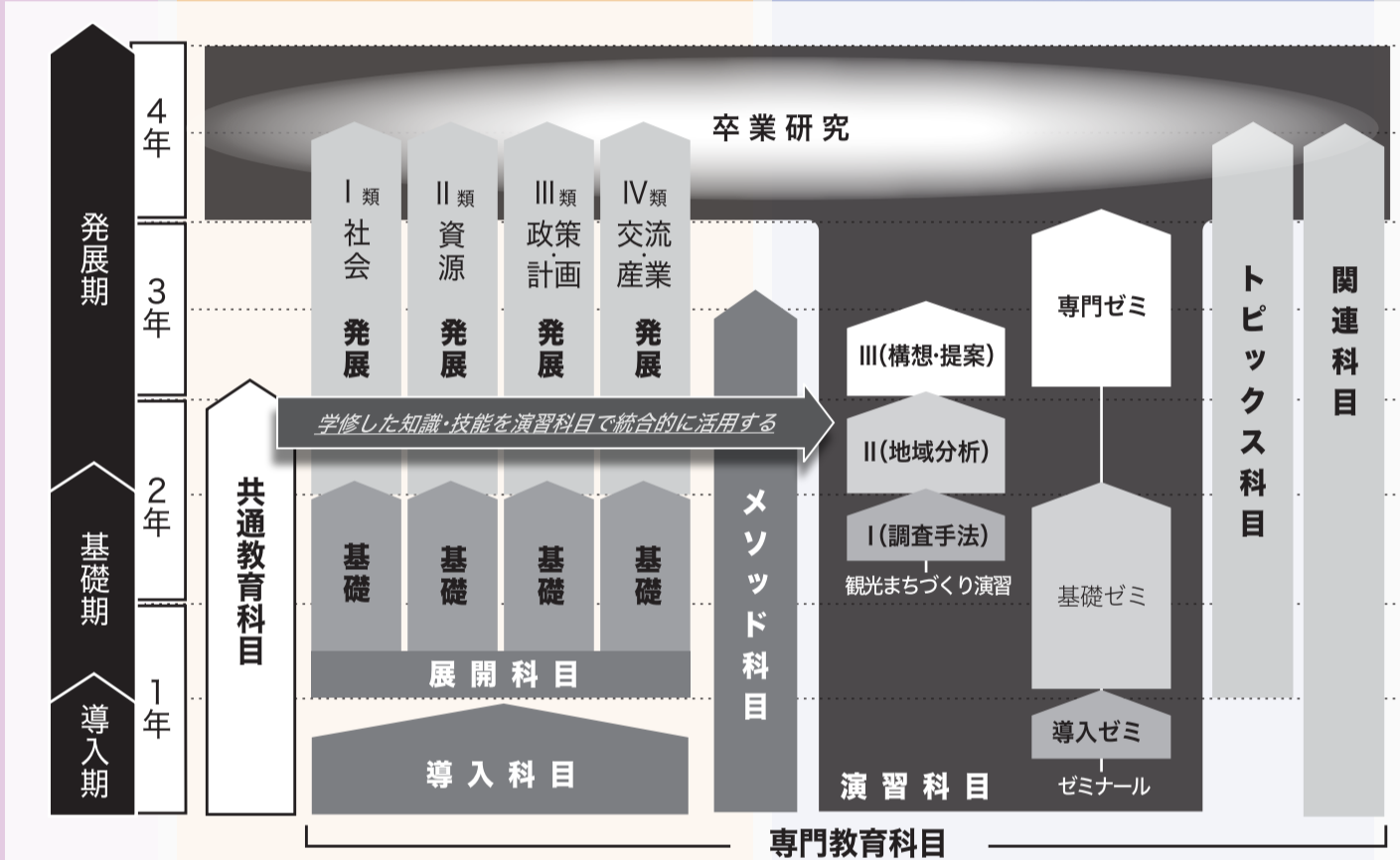
教育課程全体を導入期・基礎期・発展期と3つの段階に区分し、導入期から基礎期にかけては多様な社会のあり方に対する構造的な見方の基盤となる社会学の学びと、観光や交流が地域に与える影響の多面性や、地域に働きかけるまちづくりの基本的な理解を段階的に身につけます。発展期には、学生の興味・関心及び希望する進路に応じて観光まちづくりに関連するさらに多様な分野の応用的・実践的学びへと深めていきます。

1 年次から4 年次の学び

**CP1** 文理の区別なく入学する学生が観光学の専門的学修に円滑に取り組めるよう、初年次から**共通教育科目**と**専門教育科目**を置き、両者の総合的な接続・展開を図る。特に導入期において、幅広いレベルアーツを観光まちづくりをめぐる方法論的な学びと結びつけて修得するため、共通教育科目と並行して専門教育科目に**導入科目**を置き、社会学の方法論と、観光や交流を通じたまちづくりの基本的な考え方を学ぶ。

**CP2** 観光まちづくりに関わる多様な専門領域の知識を身につけるため、**展開科目**を置く。展開科目の各科目は、観光や交流が地域にもたらす影響の多面性と、地域の社会構造や特性、具体的な観光まちづくりの方策を学ぶための、**社会、資源、政策・計画、交流・産業の4分野**に分類される。さらに、基礎期には4分野のバランスのとれた学びを重視し、発展期には学生自身の興味・関心に応じた選択的・主体的な履修を図るため、**展開科目を基礎と発展に区分**する。基礎期に配置する科目は展開科目基礎として観光や交流が地域にもたらす影響の幅広い理解や、観光まちづくりの方策に関する基礎的理解を図り、発展期に配置する科目は展開科目発展としてより深い社会構造や観光まちづくりの具体的な方策の理解を図る。

**CP6** 導入・基礎・発展といった段階を経た学修と並行して、観光や交流という現象を学ぶ上で関連する他の専門分野について理解するための**関連科目**を置く。関連科目で、導入期から基礎期にかけての共通教育科目の不足を補うほか、基礎から発展期においては他学部の専門教育をも活用し、本学独自の神道文化と地域形成に関する科目や、博物館学課程に関する科目などを配置する。



**CP3** 実践的な学修を支える技能として、地域の特性および課題の把握・分析手法や、観光まちづくりの構想・提案の表現手法などを身につけるため、**メソッド科目**を置く。導入期に基本的な調査手法として必修科目「社会調査法入門」を学び、さらに基礎期から発展期にかけて学年の進行と学生自身の興味関心及び進路に応じて順次必要な技能を選択的に修得する。

**CP4** 活力ある地域の実現に寄与する観光や交流の具体的な施策を自ら考え、提案する能力を身につけるため、**演習科目**を置く。導入期から基礎期にかけては少人数でのゼミナール形式の科目を配置し、基礎期から発展期にかけては「観光まちづくり演習」「専門ゼミナール」「卒業研究」を必修科目として配置する。学びの段階に応じて、他科目で学修した各専門分野の個別知識や技能を統合的に活用し、課題解決型学習を通じて実際の地域への提案を行う能力を実践的に身につける。

**CP5** 観光まちづくりの現場や、実務により近い分野の専門家及び実務経験豊富な講師を招き、より実践的な話題に触れるための科目として**トピックス科目**を置く。**トピックス科目**では、大学で学修した知識・技能が観光まちづくりの実践の場でどのように生かされるかを知ることで、学修意欲の向上や将来の進路を考える契機とする。

## 入学者受け入れ方針

アドミッション・ポリシー

既存分野の壁を越えて能動的に学ぶ向上心を保持し、積極的に地域に働きかけようという展望を持つ学生、特に観光やまちづくりに関心を有し、活力ある地域社会の実現に向けて、多様な分野で活躍したいという意欲がある学生を全国から受け入れます。

入学

### 知識・技能

**AP1** 本学部で学ぶ分野に関連する教科・科目について、高等学校卒業程度の学力を備える者

### 思考力・表現力・判断力

**AP2** 地域社会やその持続可能性に対して問題意識を持ち、論理的に考え、自分の考えを表現するための基礎的な力を持つ者

### 主体性を持って 多様な人々と協働して学ぶ態度

**AP3** 自身の興味・関心にしがたい、主体的に活動に取り組む者、またその成果について第三者からの評価を得ている者

一般選抜、学校推薦型選抜、総合型選抜のいずれも上記3観点から適性を確認します。特に一般選抜では外国語(英語)を必須科目として国語、地理歴史・公民、数学、理科と合わせて最大5教科での選抜を行い、高等学校等での重点履修科目等による文理の区分を設けず、意欲的な学生を幅広く受け入れます。

A 知識・技能

DP-A1 多様な現代社会を理解する深い教養を身につけ、観光や交流が地域にもたらす影響を多角的・批判的に理解している。

DP-A2 地域の課題解決に向けて、地域をとりまく社会構造や社会意識の様態、資源の特性を理解し、観光まちづくりの方策としての政策・計画及び交流・産業に関する知識を身につけている。

DP-A3 観光や交流を通じた活力あふれる地域の実現に向けて、具体的な地域の特性や課題を的確に把握・分析できる。

B 思考力・表現力・判断力

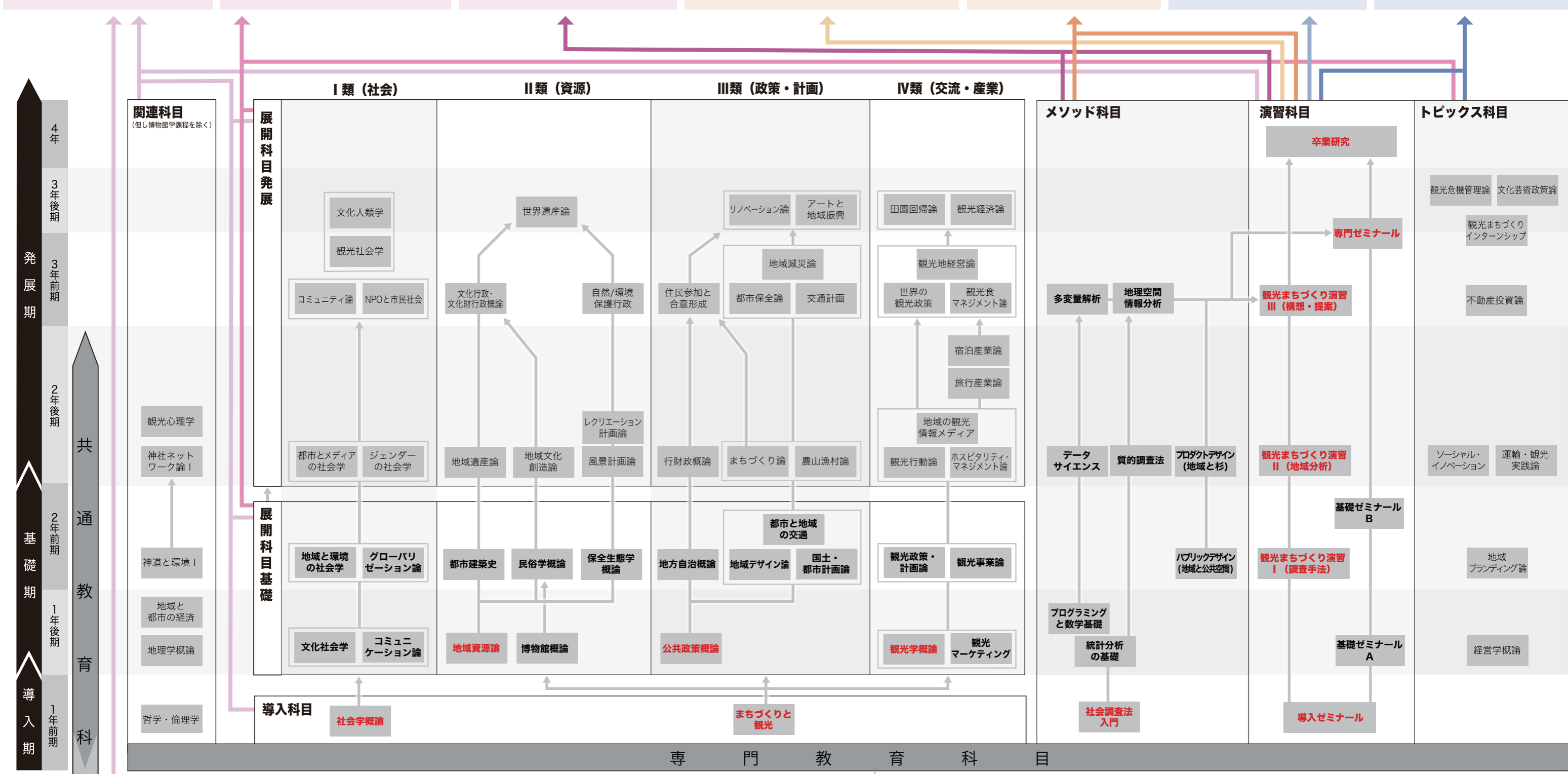
DP-B1 学修した知識や技能を活用して、具体的な地域を対象とした観光や交流に関する施策の可能性と、それらが活力ある地域の実現にどのように貢献するかについて、理念と根拠に基づき自らの考えを述べる事ができる。

DP-B2 自らの考えや他者に伝えたい事実について、その実証的根拠を明らかにして、口頭説明や文章、図表、造形物等によって表現し、適切に伝えることができる。

C 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

DP-C1 社会の多様性を尊重し、様々な文化的背景を持った他者との共同作業や対話を通じて自分の考えを深めることができる。

DP-C2 学修した知識や技能を活用して、現実の地域社会に働きかける実践的な態度で学ぼうとする。



**凡例**

- 必修科目** (Red box)
- 選択必修科目** (Yellow box)
- 選択科目** (White box)

**國學院科目群** (神道と文化) 建学の精神や日本文化を理解する

**言語スキル科目群** (第2外国語 英語Ⅰ～Ⅳ) グローバル社会に必要な異文化理解力・コミュニケーション力を培う

**STEM\*系科目群** (\* Science, Technology, Engineering 及び Mathematics の頭文字) 技術革新が進む社会で活躍するために必要な知識と能力を習得する

**その他の科目** (シチズンシップ科目群 専門教養科目群 ライフデザイン科目群) 複眼的な視点を獲得するため、法学、文学、経済学、スポーツ科学などの基礎を学ぶ

# 観光まちづくり学部観光まちづくり学科 カリキュラム・マップ

## 【ディプロマ・ポリシー】

【知識・技能】	
DP-A1	多様な現代社会を理解する深い教養を身につけ、観光や交流が地域にもたらす影響を多角的・批判的に理解している。
DP-A2	地域の課題解決に向けて、地域をとりまく社会構造や社会意識の様態、資源の特性を理解し、観光まちづくりの方策としての政策・計画及び交流・産業に関する知識を身につけている。
DP-A3	観光や交流を通じた活力あふれる地域の実現に向けて、具体的な地域の特性や課題を的確に把握・分析できる。
【思考力・判断力・表現力】	
DP-B1	学修した知識や技能を活用して、具体的な地域を対象とした観光や交流に関する施策の可能性と、それらが活力ある地域の実現にどのように貢献するかについて、理念と根拠に基づき自らの考えを述べることができる。
DP-B2	自らの考えや他者に伝えたい事実について、その実証的根拠を明らかにして、口頭説明や文章、図表、造形物等によって表現し、適切に伝えることができる。
【主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度】	
DP-C1	社会の多様性を尊重し、様々な文化的背景を持った他者との共同作業や対話を通じて自分の考えを深めることができる。
DP-C2	習得した知識や技能を活用して、現実の地域社会に働きかける実践的な態度で学ぼうとする。

### ◎観光まちづくり学部の卒業要件

科目区分	卒業に要する単位
共通教育科目	26単位以上
専門教育科目	74単位以上
自由選択領域 ・ 共通教育科目で26単位を超えて修得した単位 ・ 専門教育科目で74単位を超えて修得した単位	24単位

### ◎専門教育科目・科目区分別の履修条件

科目区分				履修方法	単位数	
導入科目				必修科目	4単位	
メソッド科目				必修科目	2単位	
				選択必修科目	4単位以上	
演習科目				必修科目	18単位	
				選択必修科目	2単位以上	
展開科目	44単位以上	基礎	26単位以上	I類（社会）	選択必修科目 4単位以上	
				II類（資源）	必修科目	2単位
					選択必修科目	4単位以上
				III類（政策・計画）	必修科目	2単位
	選択必修科目	4単位以上				
	IV類（交流・産業）	必修科目	2単位			
選択必修科目		4単位以上				
		発展		選択科目	12単位以上	
専門教育科目全体					74単位以上	

観光まちづくり学部観光まちづくり学科 カリキュラム・マップ

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			ディプロマ・ポリシーとの対応								
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	A1	A2	A3	B1	B2	C1	C2		
共通教育科目	國學院科目群	神道と文化	1	前	2			✓			○						
		國學院の学び（國學院大學の歴史と未来）	1・2	前		2			✓		○						
		日本文化を知る（日本文化の普遍性と固有性）	1・2	後		2			✓		○						
		日本文化を知る（儀礼文化研究）	1・2	後		2			✓		○						
		日本文化を知る（武道の特性と国際化）	1・2	後		2			✓		○						
		日本文化を知る（日本文化論と日本神話）	1・2	後		2			✓		○						
		Japan Studies	2・3	前		2			✓		○						
言語スキル科目群	日本語	基礎日本語	1・2	後		2			✓		○				○		
		英語	英語Ⅰ	1	前	2			✓		○					○	
			英語Ⅱ	1	後	2			✓		○					○	
			英語Ⅲ	2	前	2			✓		○					○	
	英語Ⅳ		2	後	2			✓		○					○		
	外国語	ドイツ語Ⅰ	1	前		2			✓		○					○	
		ドイツ語Ⅱ	1	後		2			✓		○					○	
		フランス語Ⅰ	1	前		2			✓		○					○	
		フランス語Ⅱ	1	後		2			✓		○					○	
		中国語Ⅰ	1	前		2			✓		○					○	
		中国語Ⅱ	1	後		2			✓		○					○	
		韓国語Ⅰ	1	前		2			✓		○					○	
		韓国語Ⅱ	1	後		2			✓		○					○	
		スペイン語Ⅰ	1	前		2			✓		○					○	
スペイン語Ⅱ		1	後		2			✓		○					○		
STEM系科目群	データサイエンス	コンピュータと情報Ⅰ	1・2	前・後		2			✓		○				○		
		コンピュータと情報Ⅱ	1・2	後		2			✓		○				○		
		情報科学入門	1・2	前		2			✓		○				○		
	科学と論理	地球環境と人間	1・2	後		2			✓		○						
		宇宙物理学入門	1・2	前		2			✓		○						
		科学的思考法	1・2	後		2			✓		○						
シチズンシップ科目群	法学（日本国憲法）	1・2	前		2			✓		○							
	法と社会参加（企業での活動と法）	1・2	後		2			✓		○							
	政治と社会参加（社会を変えるNPO活動）	1・2	後		2			✓		○							
	行政と市民生活（デジタル時代の行政と社会）	1・2	前		2			✓		○							

科目区分	授業科目の名称	配当年次		単位数			授業形態			ディプロマ・ポリシーとの対応							
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	A1	A2	A3	B1	B2	C1	C2	
共通教育科目	専門教養科目群	比較文化論Ⅰ	1・2	後		2		✓			○						
		日本の経済	1・2	前		2		✓			○						
		経済理論入門	1・2	後		2		✓			○						
		経済経営数学入門	1・2	前		2		✓			○						
		経済学史入門	1・2	後		2		✓			○						
	ライフデザイン科目群	スポーツ実技A	1・2	前		1				✓	○						
		スポーツ実技B	1・2	後		1				✓	○						
		スポーツ科学論	1・2	後		2		✓			○						
専門教育科目	導入科目	社会学概論	1	前	2		✓			○							
		まちづくりと観光	1	前	2		✓			○							
	メンツド科目	社会調査法入門	1	前	2		✓					○		○			
		統計分析の基礎	1	後	2			✓				○		○			
		プログラミングと数学基礎	1	後	2			✓				○		○			
		パブリックデザイン（地域と公共空間）	2・3	前	2		✓					○		○			
		プロダクトデザイン（地域と杉）	2・3	後	2		✓					○		○			
		データサイエンス	2・3	後	2			✓				○		○			
		質的調査法	2・3	後	2			✓				○		○			
		多変量解析	3	前	2			✓				○		○			
		地理空間情報分析	3	前	2			✓				○		○			
		演習科目	導入ゼミナール	1	前	2			✓						○	○	
	観光まちづくり演習Ⅰ（調査手法）		2	前	2			✓				○		○			
	観光まちづくり演習Ⅱ（地域分析）		2	後	4			✓				○	○	○	○		
	観光まちづくり演習Ⅲ（構想・提案）		3	前	4			✓				○	○	○	○	○	
	専門ゼミナール		3	通	2			✓					○	○	○	○	
	卒業研究		4	通	4			✓					○	○	○	○	
基礎ゼミナールA	1		後	2			✓			○				○			
基礎ゼミナールB	2		前	2			✓			○				○			
展開科目	基礎Ⅰ類（社会）	文化社会学	1	後	2		✓			○	○						
		コミュニケーション論	1	後	2		✓			○							
		地域と環境の社会学	2	前	2		✓			○	○						
		グローバリゼーション論	2	前	2		✓			○							
	基礎Ⅱ類（資源）	地域資源論	1	後	2		✓			○	○						
		博物館概論	1	後	2		✓			○							
		都市建築史	2	前	2		✓			○	○						
		民俗学概論	2	前	2		✓			○							
保全生態学概論	2	前	2		✓			○	○								

科目区分	授業科目の名称	配当年次		単位数			授業形態			ディプロマ・ポリシーとの対応							
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	A1	A2	A3	B1	B2	C1	C2	
専門教育科目	展開科目 基礎Ⅲ類 (政策・計画)	公共政策概論	1	後	2			✓			○	○					
		地方自治概論	2	前		2		✓			○	○					
		地域デザイン論	2	前		2		✓			○	○					
		国土・都市計画論	2	前		2		✓			○	○					
		都市と地域の交通	2	前		2		✓			○	○					
	基礎Ⅳ類 (交流・産業)	観光学概論	1	後	2			✓			○	○					
		観光マーケティング	1	後		2		✓			○	○					
		観光政策・計画論	2	前		2		✓			○	○					
		観光事業論	2	前		2		✓			○	○					
	発展Ⅰ類 (社会)	都市とメディアの社会学	2・3	後		2		✓			○	○					
		ジェンダーの社会学	2・3	後		2		✓			○	○					
		コミュニティ論	3	前		2		✓			○	○					
		NPOと市民社会	3	前		2		✓			○	○					
		観光社会学	3	前		2		✓			○	○					
		文化人類学	3	後		2		✓			○	○					
	発展Ⅱ類 (資源)	地域遺産論	2・3	後		2		✓				○					
		地域文化創造論	2・3	後		2		✓				○					
		風景計画論	2・3	後		2		✓				○					
		レクリエーション計画論	2・3	後		2		✓				○					
		文化行政・文化財行政概論	3	前		2		✓				○					
		自然/環境保護行政概論	3	前		2		✓				○					
		世界遺産論	3	後		2		✓				○					
	発展Ⅲ類 (政策・計画)	行財政概論	2・3	後		2		✓				○					
		まちづくり論	2・3	後		2		✓				○					
		農山漁村論	2・3	後		2		✓				○					
		都市保全論	3	前		2		✓				○					
		交通計画	3	前		2		✓				○					
		住民参加と合意形成	3・4	前		2		✓				○					
		地域減災論	3・4	前		2		✓				○					
		リノベーション論	3	後		2		✓				○					
		アートと地域振興	3	後		2		✓				○					
	発展Ⅳ類 (交流・産業)	観光行動論	2・3	後		2		✓				○					
ホスピタリティ・マネジメント論		2・3	後		2		✓				○						
地域の観光情報メディア		2・3	後		2		✓				○						
旅行産業論		2・3	後		2		✓				○						
宿泊産業論		2・3	後		2		✓				○						
観光地経営論		3	前		2		✓				○						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			ディプロマ・ポリシーとの対応							
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	A1	A2	A3	B1	B2	C1	C2	
専門教育科目	発展Ⅳ類 (交流・産業)	観光食マネジメント論	3・4	前		2		✓				○				
		世界の観光政策	3・4	前		2		✓				○				
		観光経済論	3	後		2		✓				○				
		田園回帰論	3	後		2		✓				○				
専門教育科目	トピックス科目	経営学概論	1・2	後		2		✓				○				○
		地域ブランディング論	2・3	前		2		✓				○				○
		ソーシャル・イノベーション	2・3	後		2		✓				○				○
		運輸・観光実践論	2・3	後		2		✓				○				○
		不動産投資論	3・4	前		2		✓				○				○
		文化芸術政策論	3	後		2		✓				○				○
		観光危機管理論	3	後		2		✓				○				○
		観光まちづくりインターンシップ	3	通		2				✓			○	○	○	○
関連科目	哲学・倫理学	1	前		2		✓				○					
	地理学概論	1	後		2		✓				○					
	地域と都市の経済	1・2	後		2		✓				○					
	神道と環境Ⅰ	2	前		2		✓				○					
	観光心理学	2	後		2		✓				○					
	神社ネットワーク論Ⅰ	2・3	後		2		✓				○					

※自由科目(要卒外)は掲載していない。



① 社会・生活の調査と分析を通して、観光まちづくりに寄与する人材養成のための履修モデル

<本モデル固有の履修上の特徴>

- ・ 1年次から2年次にかけて共通教育科目の國學院科目群とSTEM系科目群を履修しながら、シチズンシップ科目を履修します。
- ・ 観光まちづくり演習Ⅱ（地域分析）が始まる2年次後期以降、メソッド科目と展開科目発展のⅠ類（社会）の科目を特に多く履修しながら、展開科目発展のⅢ類（政策・計画）の科目を多く履修します。

<本モデルが目指す人材>

- ・ 観光まちづくりの体系的な基礎学習を基盤としながらも、地域を取り巻く社会の分析と計画や政策の分析・策定・実行のための能力を強化し、このアプローチから観光まちづくり演習Ⅲ（構想・提案）を始めとする共同作業の場においてリードできる人材を目指します。
- ・ 進路として、公務員、コンサルタント、ジャーナリストや、NPO、NGO、出版、放送、広告、商社、IT、金融など幅広い分野で活躍する人材を想定しています。

太字：必修科目、（）：単位数※無記載は2単位

	1年	2年	3年	4年
共通教育	神道と文化 英語Ⅰ・Ⅱ 第二外国語Ⅰ・Ⅱ 日本文化を知るA コンピュータと情報Ⅰ 科学的思考法	英語Ⅲ・Ⅳ 國學院の学び 情報科学入門 政治と社会参加(NPO)		
導入	社会学概論 まちづくりと観光			
メソッド	社会調査法入門 統計分析の基礎	データサイエンス 質的調査法	プロダクトデザイン（地域と杉） 多変量解析	
演習	導入ゼミナール	観光まちづくり演習Ⅰ 観光まちづくり演習Ⅱ(4) 基礎ゼミナールB	観光まちづくり演習Ⅲ(4) 専門ゼミナール	卒業研究(4)
展開・基礎	[Ⅰ]文化社会学 コミュニケーション論 [Ⅱ]地域資源論 博物館概論 [Ⅲ]公共政策概論 [Ⅳ]観光学概論 観光マーケティング	[Ⅰ]地域と環境の社会学 グローバリゼーション論 [Ⅱ]都市建築史 民俗学概論 保全生態学概論 [Ⅲ]地域デザイン論 都市と地域の交通 [Ⅳ]観光事業論		
展開・発展		[Ⅰ]都市とメディアの社会学	[Ⅰ]ジェンダーの社会学 NPOと市民社会 観光社会学 文化人類学 [Ⅱ]地域文化創造論 風景計画論 文化行政・文化財行政概論 [Ⅲ]まちづくり論 農山漁村論 住民参加と合意形成 地域減災論 リノベーション論 [Ⅳ]地域の観光情報メディア	
トピックス		ソーシャル・イノベーション		
関連	哲学・倫理学			
単位数	42単位	42単位	40単位	

合計 124 単位（博物館学課程の単位は含まない）

② 歴史・文化の保存と活用を通して、観光まちづくりに寄与する人材養成のための履修モデル

<本モデル固有の履修上の特徴>

- ・ 1年次から2年次にかけて共通教育科目の國學院科目群を履修します。
- ・ 観光まちづくり演習Ⅱ（地域分析）が始まる2年次後期以降、展開科目発展からⅡ類（資源）の科目を中心に歴史・文化を主な対象として扱う科目を各類から履修し、博物館学課程を履修します。

<本モデルが目指す人材>

- ・ 観光まちづくりの体系的な基礎学習を基盤とし、歴史・文化の保存と活用につなげていくことを目指して、地域を取り巻く社会の分析、地域の空間構造・資源の把握、計画や政策の分析・策定・実行、地域主体の交流・産業の創出のための能力をバランス良く強化し、観光まちづくり演習Ⅲ（構想・提案）を始めとする共同作業の場においてリードできる人材を目指します。
- ・ 進路として、歴史・文化の保存と活用に直接関与する博物館等の学芸員や職員、公務員、歴史・文化を有する地域の観光協会・DMO・まちづくり組織の職員、歴史・文化を活用した宿泊業や旅行業の分野で活躍する人材、上記に関する情報を集め、編集し、発信する出版、放送、広告等の分野で活躍する人材を想定しています。

太字：必修科目、（）：単位数※無記載は2単位

	1年	2年	3年	4年
共通教育	神道と文化 英語Ⅰ・Ⅱ 第二外国語Ⅰ・Ⅱ 國學院の学び 日本文化を知るA コンピュータと情報Ⅰ	英語Ⅲ・Ⅳ Japan Studies 地球環境と人間 比較文化論Ⅰ		
導入	社会学概論 まちづくりと観光			
メソッド	社会調査法入門 統計分析の基礎	プロダクトデザイン（地域と杉）	質的調査法	
演習	導入ゼミナール 基礎ゼミナールA	観光まちづくり演習Ⅰ 観光まちづくり演習Ⅱ(4)	観光まちづくり演習Ⅲ(4) 専門ゼミナール	卒業研究(4)
展開・基礎	[Ⅰ]文化社会学 コミュニケーション論 [Ⅱ]地域資源論 博物館概論 [Ⅲ]公共政策概論 [Ⅳ]観光学概論 観光マーケティング	[Ⅰ]地域と環境の社会学 グローバリゼーション論 [Ⅱ]都市建築史 民俗学概論 [Ⅲ]地方自治概論 地域デザイン論 [Ⅳ]観光政策・計画論 観光事業論		
展開・発展		[Ⅱ]地域遺産論 風景計画論 [Ⅲ]まちづくり論 [Ⅳ]地域の観光情報メディア	[Ⅰ]ジェンダーの社会学 文化人類学 [Ⅱ]地域文化創造論 文化行政・文化財政概論 世界遺産論 [Ⅲ]行財政概論 都市保全論 リノベーション論 アートと地域振興 [Ⅳ]観光地経営論 観光食マネジメント論 世界の観光政策 田園回帰論	
トピックス			文化芸術政策論	
関連		博物館学課程(15)		
単位数	42単位	42単位	40単位	

合計 124 単位（博物館学課程の単位は含まない）

③ 自然・環境の保護と利用を通して、観光まちづくりに寄与する人材養成のための履修モデル

<本モデル固有の履修上の特徴>

- ・1年次から2年次にかけて共通教育科目の國學院科目群及びSTEM系科目群を履修します。
- ・観光まちづくり演習Ⅱ（地域分析）が始まる2年次後期以降、展開科目発展からⅡ類（資源）の科目を中心に自然・環境を主な対象として扱う科目を各類から履修し、関連科目も履修します。

<本モデルが目指す人材>

- ・観光まちづくりの体系的な基礎学習を基盤とし、自然・環境の保護と利用につなげていくことを目指して、地域を取り巻く社会の分析、地域の空間構造・資源の把握、計画や政策の分析・策定・実行、地域主体の交流・産業の創出のための能力をバランス良く強化し、観光まちづくり演習Ⅲ（構想・提案）を始めとする共同作業の場においてリードできる人材を目指します。
- ・進路として、自然・環境の保護と利用に直接関与する公務員や環境関連組織、観光協会・DMO・まちづくり組織の職員、自然・環境を利用した宿泊業や旅行業の分野で活躍する人材、上記に関する情報を集め、編集し、発信する出版、放送、広告等の分野で活躍する人材を想定しています。

※太字：必修科目、（）：単位数※無記載は2単位

	1年	2年	3年	4年
共通教育	神道と文化 英語Ⅰ・Ⅱ 第二外国語Ⅰ・Ⅱ 國學院の学び 日本文化を知るA コンピュータと情報Ⅰ 科学的思考法	英語Ⅲ・Ⅳ Japan Studies 地球環境と人間		
導入	社会学概論 まちづくりと観光			
メソッド	社会調査法入門 統計分析の基礎	質的調査法	地理空間情報分析	
演習	導入ゼミナール	観光まちづくり演習Ⅰ 観光まちづくり演習Ⅱ(4) 基礎ゼミナールB	観光まちづくり演習Ⅲ(4) 専門ゼミナール	卒業研究(4)
展開・基礎	[Ⅰ]コミュニケーション論 [Ⅱ]地域資源論 博物館概論 [Ⅲ]公共政策概論 [Ⅳ]観光学概論 観光マーケティング	[Ⅰ]地域と環境の社会学 グローバルゼミナール論 [Ⅱ]民俗学概論 保全生態学概論 [Ⅲ]国土・都市計画論 都市と地域の交通 [Ⅳ]観光政策・計画論		
展開・発展		[Ⅱ]風景計画論 レクリエーション計画論 [Ⅲ]行財政概論 まちづくり論	[Ⅰ]都市とメディアの社会学 観光社会学 [Ⅱ]地域遺産論 文化行政・文化財行政概論 自然/環境保護行政概論 [Ⅲ]農山漁村論 住民参加と合意形成 地域減災論 [Ⅳ]地域の観光情報メディア 観光地経営論 観光食マネジメント論 観光経済論 田園回帰論	
トピックス			観光まちづくりインターンシップ	
関連	地理学概論	神社ネットワーク論Ⅰ		
単位数	42単位	42単位	40単位	

合計 124 単位

④ 公共政策を通して、観光まちづくりに寄与する人材養成のための履修モデル

<本モデル固有の履修上の特徴>

- ・1年次から2年次にかけて共通教育科目の國學院科目群を履修しながら、シチズンシップ科目群で法学や行政に関わる科目、専門教養科目群で経済に関わる科目を履修します。
- ・観光まちづくり演習Ⅱ（地域分析）が始まる2年次後期以降、展開科目発展からⅢ類（政策・計画）の科目を特に多く履修しながら、メソッド科目、トピックス科目を多く履修します。

<本モデルが目指す人材>

- ・観光まちづくりの体系的な基礎学習を基盤としながらも、計画や政策の分析・策定・実行のための能力を強化し、このアプローチから観光まちづくり演習Ⅲ（構想・提案）を始めとする共同作業の場においてリードできる人材を目指します。また、3年次以降は、トピックス科目を契機に実務的なものの見方も兼ね備えていきます。
- ・進路として、公務員、コンサルタント、NPO、NGO等の職員や、出版、放送、広告の分野で活躍する人材を想定しています。

※太字：必修科目、（）：単位数※無記載は2単位

	1年	2年	3年	4年
共通教育	神道と文化 英語Ⅰ・Ⅱ 第二外国語Ⅰ・Ⅱ 日本文化を知るA コンピュータと情報Ⅰ 法学(日本国憲法) 行政と市民生活	英語Ⅲ・Ⅳ 國學院の学び 日本の経済		
導入	社会学概論 まちづくりと観光			
メソッド	社会調査法入門 統計分析の基礎	パブリックデザイン（地域と公共空間） 質的調査法	多変量解析	
演習	導入ゼミナール 基礎ゼミナールA	観光まちづくり演習Ⅰ 観光まちづくり演習Ⅱ(4)	観光まちづくり演習Ⅲ(4) 専門ゼミナール	卒業研究(4)
展開・基礎	[Ⅰ]文化社会学 [Ⅱ]地域資源論 博物館概論 [Ⅲ]公共政策概論 [Ⅳ]観光学概論 観光マーケティング	[Ⅰ]地域と環境の社会学 グローバルゼーション論 [Ⅱ]都市建築史 [Ⅲ]地方自治概論 国土・都市計画論 都市と地域の交通 [Ⅳ]観光政策・計画論		
展開・発展		[Ⅰ]ジェンダーの社会学 [Ⅱ]風景計画論 [Ⅲ]行財政概論 農山漁村論	[Ⅰ]コミュニティ論 [Ⅱ]地域文化創造論 文化行政・文化財行政概論 [Ⅲ]まちづくり論 都市保全論 住民参加と合意形成 地域減災論 交通計画 アートと地域振興 [Ⅳ]地域の観光情報メディア 世界の観光政策 田園回帰論	
トピックス			文化芸術政策論 観光まちづくりインターンシップ	
関連		地域と都市の経済		
単位数	42単位	42単位	40単位	

合計 124 単位

⑤ 空間づくりや関連する計画づくりを通して、観光まちづくりに寄与する人材養成のための履修モデル

＜本モデル固有の履修上の特徴＞

・1年次から2年次にかけて、共通教育科目のSTEM系科目群を履修しながら、シチズンシップ科目群で法と社会参加に関わる科目、専門教養科目群で日本の経済に関わる科目を履修します。

・観光まちづくり演習Ⅱ（地域分析）が始まる2年次後期以降、メソッド科目とトピックス科目を特に多く履修しながら、展開科目発展でⅡ類（資源）とⅢ類（政策・計画）の科目、関連科目を多く履修します。

＜本モデルが目指す人材＞

・観光まちづくりの体系的な基礎学習を基盤とし、空間づくりや計画づくりにつなげていくことを目指して、地域を取り巻く社会の分析、地域の空間構造・資源の把握、計画や政策の分析・策定・実行のための能力をバランス良く強化し、観光まちづくり演習Ⅲ（構想・提案）を始めとする共同作業の場においてリードできる人材を目指します。また、2年次以降、トピックス科目を契機に実務的なものの見方を兼ね備えていきます。

・進路として、宿泊業、建設業、不動産業、運輸交通業の分野や、観光協会・DMO、まちづくり組織の職員、公務員として活躍する人材を想定しています。

※太字：必修科目、（）：単位数※無記載は2単位

	1年	2年	3年	4年
共通教育	神道と文化 英語Ⅰ・Ⅱ 第二外国語Ⅰ・Ⅱ コンピュータと情報Ⅰ 情報科学入門 科学的思考法	英語Ⅲ・Ⅳ 地球環境と人間 法と社会参加 日本の経済		
導入	社会学概論 まちづくりと観光			
メソッド	社会調査法入門 統計分析の基礎 プログラミングと数学 基礎	データサイエンス	パブリックデザイン(地域と公共空間) 地理空間情報分析	
演習	導入ゼミナール	観光まちづくり演習Ⅰ 観光まちづくり演習Ⅱ(4) 基礎ゼミナールB	観光まちづくり演習Ⅲ(4) 専門ゼミナール	卒業研究(4)
展開・基礎	[Ⅰ]コミュニケーション論 [Ⅱ]地域資源論 博物館概論 [Ⅲ]公共政策概論 [Ⅳ]観光学概論 観光マーケティング	[Ⅰ]グローバルゼミナール論 [Ⅱ]都市建築史 保全生態学概論 [Ⅲ]地域デザイン論 国土・都市計画論 都市と地域の交通 [Ⅳ]観光政策・計画論		
展開・発展		[Ⅱ]風景計画論 [Ⅳ]観光行動論 宿泊産業論	[Ⅰ]都市とメディアの社会学 [Ⅱ]レクリエーション計画論 自然/環境保護行政概論 世界遺産論 [Ⅲ]まちづくり論 都市保全論 交通計画 地域減災論 リノベーション論 [Ⅳ]観光地経営論	
トピックス		地域ブランディング論	不動産投資論 観光危機管理論	
関連	地理学概論		神社ネットワーク論I	
単位数	42単位	42単位	40単位	

合計 124 単位

⑥ 観光関連産業での事業・経営を通して、観光まちづくりに寄与する人材養成のための履修モデル

<本モデル固有の履修上の特徴>

- ・1年次から2年次にかけて共通教育科目の國學院科目群を履修しながら、STEM系科目群で情報科学系の科目、専門教養科目群で経済経営系の科目を履修します。
- ・観光まちづくり演習Ⅱ（地域分析）が始まる2年次後期以降、展開科目発展でⅣ類（交流・産業）の科目とトピックス科目を特に多く履修します。

<本モデルが目指す人材>

- ・観光まちづくりの体系的な基礎学習を基盤としながらも、地域主体の交流・産業を創出するための能力を強化し、このアプローチから観光まちづくり演習Ⅲ（構想・提案）を始めとする共同作業の場においてリードできる人材を目指します。また、1年次からトピックス科目を履修し、実務的なもの見方を兼ね備えていきます。
- ・進路として、宿泊業、旅行業、地域の観光協会・DMO等の観光産業及び、運輸交通業、起業、商社、IT、金融、広告等の観光関連部門で活躍する人材を想定しています。

※太字：必修科目、（）：単位数※無記載は2単位

	1年	2年	3年	4年
共通教育	神道と文化 英語Ⅰ・Ⅱ 第二外国語Ⅰ・Ⅱ 日本文化を知るA コンピュータと情報Ⅰ 経済理論入門	英語Ⅲ・Ⅳ Japan Studies 情報科学入門 経済経営数学入門		
導入	社会学概論 まちづくりと観光			
メソッド	社会調査法入門 統計分析の基礎	質的調査法		
演習	導入ゼミナール 基礎ゼミナールA	観光まちづくり演習Ⅰ 観光まちづくり演習Ⅱ(4)	観光まちづくり演習Ⅲ(4) 専門ゼミナール	卒業研究(4)
展開・基礎	[Ⅰ]コミュニケーション論 [Ⅱ]地域資源論 博物館概論 [Ⅲ]公共政策概論 [Ⅳ]観光学概論 観光マーケティング	[Ⅰ]グローバリゼーション論 [Ⅱ]保全生態学概論 [Ⅲ]地域デザイン論 国土・都市計画論 都市と地域の交通 [Ⅳ]観光政策・計画論 観光事業論		
展開・発展		[Ⅳ]観光行動論 ホスピタリティ・マネジメント論 地域の観光情報メディア 旅行産業論	[Ⅰ]都市とメディアの社会学 観光社会学 [Ⅱ]地域遺産論 地域文化創造論 [Ⅲ]農山漁村論 地域減災論 アートと地域振興 [Ⅳ]宿泊産業論 観光地経営論 観光食マネジメント論 世界の観光政策 観光経済論 田園回帰論	
トピックス	経営学概論		運輸・観光実践論 観光まちづくりインターンシップ	
関連		観光心理学		
単位数	42単位	42単位	40単位	

合計 124 単位

観光まちづくり演習ⅠⅡⅢにおける学修の体系

	観光まちづくり演習Ⅰ（調査手法）	観光まちづくり演習Ⅱ（地域分析）	観光まちづくり演習Ⅲ（構想・提案）
演習で修得する知識、調査手法、表現技法	<p>[地域を取り巻く社会の分析] 社会の構造、意識社会構成 など</p> <p>[地域の空間構造、資源の把握] 風景、地域の唇、地域の空間構造 など</p> <p>[計画や政策の分析・策定・実行] 政策・計画、人の流れ・交通、ビッグデータの収集・活用 など</p> <p>[地域主体の交流・産業の創出] 産業、事業、起業、経済効果、評価 など</p> <p>[表現技法] 表現、プレゼンテーション、デザイン</p>		
課題	観光まちづくりのための4つの分野・アプローチに関する調査手法、表現技法を実践的に学ぶ複数の小演習に取り組む。特に[地域の空間構造、資源]の把握手法に重点的に取り組む。	具体的な地域を対象に、観光まちづくりのための4つの分野・アプローチから特性と課題を把握する。特に[地域を取り巻く社会][地域の空間構造、資源][計画や政策]の調査実施、および比較分析に重点的に取り組む。	具体的な地域を対象に、観光まちづくりのための4つの分野・アプローチから特性と課題を把握した上で、観光まちづくりの構想・提案を立案する。特に、[政策や計画]の分析・策定・実行、[地域の交流・産業]の分析・創出に重点的に取り組む。
具体的な作業	<調査・分析> 個人 ・観光まちづくりのための4つの分野・アプローチに関する8つの調査手法、表現技法の演習課題を行う。	<調査・分析> 個人 ・観光まちづくりのための4つの分野・アプローチに関する調査手法を用いて、地域の調査・分析を行う。	<調査・分析> 個人・グループ ・観光まちづくりのための4つの分野・アプローチに関する調査手法を用いて、地域の調査・分析を行う。
		<地域の特性と課題の把握> グループ ・グループで、地域の調査分析結果と他地域との比較を踏まえて、地域の特性と課題を分析する。	<地域の特性と課題の把握> グループ ・グループで、地域の調査分析結果と他地域との比較を踏まえて、地域の特性と課題を分析する。
			<観光まちづくりの構想・提案> グループ ・グループで、地域の特性と課題を踏まえて、観光まちづくりの構想・提案を立案する
	<発表> 個人 ・成果を取りまとめ、表現技法を用いて発表	<発表> グループ ・成果を取りまとめ、表現技法を用いて発表	<発表> グループ ・成果を取りまとめ、表現技法を用いて発表
担当教員の役割	・担当教員が分担して観光まちづくりのための4つの分野・アプローチに関する調査手法、表現技法を教育する	・担当教員が分担して観光まちづくりのための4つの分野・アプローチに関する調査手法、表現技法を指導する。全ての学生が4つの分野をバランスよく修得できる授業運営体制を確保する。	・担当教員が分担して観光まちづくりのための4つの分野・アプローチに関する調査手法、表現技法を指導する。全ての学生が4つの分野をバランスよく修得できる授業運営体制を確保する。

観光まちづくり演習ⅠⅡⅢで用いる4つの分野・アプローチと開講科目の対応関係

演習Ⅰ～Ⅲ 4つの分野 ・アプローチ	観光まちづくり演習Ⅲ			
	観光まちづくり演習Ⅱ			
	観光まちづくり演習Ⅰ			
	1年前期・後期開講科目	2年前期開講科目		2年後期開講科目
地域を取り巻く社会の分析	[導] <b>社会学概論</b> [Ⅰ]文化社会学 <b>コミュニケーション論</b> [メ] <b>社会調査法入門</b> <b>統計分析の基礎</b> [関]哲学・倫理学	[Ⅰ] <b>地域と環境の社会学</b> <b>グローバリゼーション論</b>	[Ⅰ]都市とメディアの社会学 ジェンダーの社会学 [メ] <b>質的調査法</b> [ト]ソーシャル・イノベーション [関]観光心理学 神社ネットワーク論Ⅰ	[Ⅰ]観光社会学 NPOと市民社会 コミュニティ論 文化人類学 [メ] <b>多変量解析</b>
地域の空間構造、資源の把握	[導] <b>まちづくりと観光</b> [Ⅱ] <b>地域資源論</b> <b>博物館概論</b> [メ] <b>統計分析の基礎</b> <b>プログラミングと数学基礎</b> [関]地理学概論	[Ⅱ] <b>保全生態学概論</b> <b>都市建築史</b> <b>民俗学概論</b> [関]神道と環境Ⅰ	[Ⅱ]風景計画論 レクリエーション計画論 地域遺産論 地域文化創造論 [メ] <b>データサイエンス</b>	[Ⅱ]自然/環境保護行政概論 文化行政・文化財行政概論 世界遺産論 [メ] <b>地理空間情報分析</b>
計画や政策の分析・策定・実行	[導] <b>まちづくりと観光</b> [Ⅲ] <b>公共政策概論</b> [Ⅳ] <b>観光学概論</b> [メ] <b>統計分析の基礎</b> [関]哲学・倫理学	[Ⅲ] <b>地方自治概論</b> <b>国土・都市計画論</b> <b>地域デザイン論</b> <b>都市と地域の交通</b> [メ] <b>パブリックデザイン（地域と公共空間）</b>	[Ⅲ]行財政概論 まちづくり論 農山漁村論 [Ⅳ]観光行動論 [メ] <b>プロダクトデザイン（地域と杉）</b> [ト]運輸・観光実践論	[Ⅰ]コミュニティ論 [Ⅲ]住民参加と合意形成 都市保全論、地域減災論 交通計画、リノベーション論 アートと地域振興 [メ] <b>地理空間情報分析</b> [ト]観光危機管理論 文化芸術政策論
地域主体の交流・産業の創出	[導] <b>まちづくりと観光</b> [Ⅳ] <b>観光学概論</b> <b>観光マーケティング</b> [メ] <b>統計分析の基礎</b> [ト]経営学概論 [関]地域と都市の経済	[Ⅳ] <b>観光政策・計画論</b> <b>観光事業論</b> [ト]地域ブランディング論	[Ⅳ]観光行動論 ホスピタリティ・マネジメント論 地域の観光情報メディア 旅行産業論、宿泊産業論 [ト]ソーシャル・イノベーション 運輸・観光実践論	[Ⅳ]世界の観光政策 観光食マネジメント論 観光地経営論 田園回帰論、観光経済論 [ト]不動産投資論

凡例 **必修科目**、**選択必修科目**、**選択科目**    [] 内表記は科目区分（導：導入科目    Ⅰ～Ⅳ：展開科目基礎・発展Ⅰ～Ⅳ類    メ：メソッド科目    ト：トピックス科目    関：関連科目）



科目名	教員名
観光まちづくり演習Ⅰ (調査手法)	下村彰男、石山千代、清野隆、大門創、児玉千絵、仲野潤一、上綱久美子

講義授業	
授業のテーマ	観光まちづくりのための調査手法を身につける
授業の内容	2年次前期の必修となる本科目は、地域の空間的、環境的な側面に焦点を当て、観光まちづくりの対象となる地域の資源や特性・課題を客観的に把握するための調査手法を学修する演習科目である。具体的には、地域に足を運んで実施する調査手法、地域の風景、地形、市街地・集落空間、人の流れ、交通、政策・計画、社会経済構造に関する調査手法、地図やスケッチ等を用いた空間デザインの表現技法、GISやビッグデータを用いた地理情報の解析について、基礎的な知識と実践するスキルを学ぶ。
到達目標	<p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光まちづくりのための一連の基本的な調査手法について理解し、その手法を説明できる。</li> <li>・地域を調査する上での基本的な姿勢を理解し、現地調査を実施できる。</li> </ul> <p>【思考・判断】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光まちづくりのための調査手法について具体的な進め方と留意点を説明できる。</li> </ul> <p>【技能・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調査結果を適切に表現し、他者に伝えることができる。</li> </ul> <p>【関心・意欲】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な地域、およびその資源や特性・課題に関心を払うことができる。</li> </ul>

授業計画	
第1回	<p>ガイダンス</p> <p>【事前学習 60分】</p> <p>地域を歩いた経験、地域を観察した経験、地域を調査した経験を振り返る。</p>
第2回	<p>地域の風景を読み解く</p> <p>【事前学習 60分】</p> <p>自身のふるさとあるいは現在住んでいる地域を他人に紹介する際に、取り上げたい風景の写真を用意する。</p>
第3回	<p>地域の暦を読み解く</p> <p>【事前学習 60分】</p> <p>自身のふるさとあるいは現在住んでいる地域の四季を紹介する上で、取り上げたい事象の写真を用意する。</p>

第4回	<p>地域の空間構造を読み解く</p> <p>【事前学習 60分】</p> <p>自身が住んでいる地域の地形、建物、道路、オープンスペースなどを調べて、その特徴を把握する。</p>
第5回	<p>地域の政策・計画を読み解く</p> <p>【事前学習 60分】</p> <p>自身が住んでいる地域の政策・計画を調べる。</p>
第6回	<p>地域の人の流れ・交通を読み解く</p> <p>【事前学習 60分】</p> <p>日本の観光地の観光客数、日本を訪れる外国人数を調べる。</p>
第7回	<p>ビッグデータを収集・活用する</p> <p>【事前学習 60分】</p> <p>ビッグデータの収集例や活用例を調べる。</p>
第8回	<p>地域の社会を読み解く</p> <p>【事前学習 60分】</p> <p>自身が住んでいる地域の人口や高齢化率などの基礎的な情報を調べる。</p>
第9回	<p>地域の経済を読み解く</p> <p>【事前学習 60分】</p> <p>自身が住んでいる地域の基幹産業について調べる。</p>
第10回	<p>デザイン表現1</p> <p>【事前学習 60分】</p> <p>観光やまちづくりの現場で活用されているフライヤーやマップを調べる。</p>
第11回	<p>デザイン表現2</p> <p>【事前学習 60分】</p> <p>観光やまちづくりの現場で活用されているサインや空間デザインを調べる。</p>
第12回	<p>最終課題1</p> <p>【事前・事後学習 60分】</p> <p>これまでに学んだ調査手法を振り返り、自ら選定した対象地の地域資源を調べる。</p>
第13回	<p>最終課題2</p> <p>【事前・事後学習 60分】</p> <p>これまでに学んだ調査手法を振り返り、自ら選定した対象地の地域の特性・課題を調べる。</p>
第14回	<p>最終課題3</p> <p>【事前・事後学習 60分】</p> <p>これまでに学んだ調査手法を振り返り、自ら選定した対象地の地域資源や特</p>

	性・課題をまとめる。
第 15 回	<p>まとめ・振り返り</p> <p>【事前・事後学習 60分】</p> <p>これまでに学んだ調査手法と演習課題を振り返る。</p>
授業計画の説明	<p>&lt;ガイダンス&gt; 第 1 回</p> <p>本科目で取り組む課題内容や、各教員の専門分野と課題の関連について説明する。</p> <p>&lt;調査手法・表現技法&gt; 第 2~11 回</p> <p>講義と小演習を通じて、下記の観光まちづくりのための分野・アプローチに関する調査手法、表現技法を学び、身に付ける。</p> <p>[地域を取り巻く社会の分析]</p> <p>地域の社会</p> <p>[地域の空間構造、資源の把握]</p> <p>地域の風景</p> <p>地域の暦</p> <p>地域の空間構造</p> <p>[計画や政策の分析・策定・実行]</p> <p>地域の政策・計画</p> <p>地域の人の流れ・交通</p> <p>ビッグデータの収集・活用</p> <p>[地域主体の交流・産業の創出]</p> <p>地域の経済</p> <p>[表現技法]</p> <p>デザイン・表現</p> <p>&lt;最終課題&gt; 第 12~14 回</p> <p>具体的な対象地域を選定し、本科目で学んだ調査手法を用いて、地域の特性や課題を調査する。さらに、本科目で学んだ表現技法を活かして、調査結果をまとめる。</p> <p>&lt;まとめ・振り返り&gt; 第 15 回</p> <p>本科目で学んだ調査手法、および最終課題を振り返り、確認する。</p>
授業時間外の学習方法	<p>毎回のテーマに沿った事前・事後学習として、下記科目で修得した知識の復習を推奨する。</p> <p>[地域を取り巻く社会の分析] に関する科目</p> <p>社会学概論、文化社会学、コミュニケーション論、社会調査法入門、統計</p>

	<p>分析の基礎、哲学・倫理学</p> <p>[地域の空間構造、資源の把握]に関する科目 まちづくりと観光、地域資源論、博物館概論、統計分析の基礎、プログラミングと数学基礎、地理学概論</p> <p>[計画や政策の分析・策定・実行]に関する科目 まちづくりと観光、公共政策概論、観光学概論、統計分析の基礎、哲学・倫理学</p> <p>[地域主体の交流・産業の創出]に関する科目 まちづくりと観光、観光学概論、観光マーケティング、統計分析の基礎、経営学概論、地域と都市の経済</p> <p>・また、自分が住んでいる地域について様々な視点から関心を払い、演習を通じて学修した調査手法で地域を調べる。</p>
受講に関するアドバイス	<p>・観光まちづくりのための4つの分野・アプローチを理解し、目的に応じた的確な調査手法を実施するため、また各々の関心に応じた学修を計画的に進めるため、本科目で取扱う分野・アプローチに関する科目の受講を推奨する。</p> <p>[地域を取り巻く社会の分析]に関する科目 地域と環境の社会学、グローバリゼーション論</p> <p>[地域の空間構造、資源の把握]に関する科目 保全生態学概論、都市建築史、民俗学概論、神道と環境 I</p> <p>[計画や政策の分析・策定・実行]に関する科目 地方自治概論、国土・都市計画論、地域デザイン論、都市と地域の交通、パブリックデザイン（地域と公共空間）</p> <p>[地域主体の交流・産業の創出]に関する科目 観光政策・計画論、観光事業論、地域ブランディング論</p>

成績評価の方法・基準		
評価方法	割合	評価基準
平常点	45%	授業で課される小演習（9回分）を評価する。
レポート	55%	第12～14回の授業内で取り組む最終課題、第15回のまとめ・ふりかえりを踏まえてブラッシュアップしたの成果物を観光まちづくりのための4つの分野・アプローチから評価する。

教科書・参考文献等

教科書

授業内にて担当教員が指示する。

参考文献

書名	著者名	出版社	備考
まちの見方・調べ方 地域づくりのための調査法入門	西村幸夫編	朝倉書店	2010年発刊

参考文献コメント

進捗状況に応じて担当教員が適宜示す。

参考になるウェブページ

進捗状況に応じて担当教員が適宜示す。

科目名	教員名
観光まちづくり演習Ⅱ (地域分析)	西村幸夫、浅野聡、井門隆夫、石本東生、梅川智也、小林裕和、小林稔、椎原晶子、塩谷英生、下間久美子、下村彰男、十代田朗、堀木美告、吉見俊哉、米田誠司、石山千代、嵩和雄、金今善、清野隆、大門創、河尻珍、藤岡麻理子、松本貴文、児玉千絵、仲野潤一、楊恵亘、潘梦斐

講義授業	
授業のテーマ	観光まちづくりのための総合的な地域分析を通して、地域の特性と課題を把握する。
授業の内容	2年次後期の必修となる本科目では、2年次前期の「観光まちづくり演習Ⅰ」で修得した調査手法を活用して、具体的な地域を対象とした総合的な分析と、複数地域との比較分析等を通じて、対象地域の特性と課題を実践的に把握できるようになることを目的とする。また、グループで課題に取り組むことから、目標に向かって他者と議論し、協働する姿勢を身につけることを目指す。最終段階では、総合的な分析を通して把握した地域の特性・課題について発表を行う。
到達目標	<p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の特性・課題を調査分析することができ、その手法を理解している。</li> </ul> <p>【思考・判断】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の特性・課題を把握するために、適切な調査分析手法を用いることができる。</li> </ul> <p>【技能・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調査分析結果を適切に表現し、他者に伝えることができる。</li> </ul> <p>【関心・意欲】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自らが暮らす地域、訪れた地域、これから訪れる地域の特性・課題は何か、常に興味・関心を有する。</li> </ul>

授業計画	
第1回	<p>共通ガイダンス、グループ分け、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の説明（対象地域の概要、調査分析の内容など）を確認する。</li> <li>・共同作業を行うグループをつくる</li> </ul> <p>【事後学習 60分】</p> <p>対象地域についての情報収集。グループでの共同作業をスムーズに行うためのコミュニケーション。</p>
第2回	<p>調査計画の立案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象地域の特徴を踏まえた調査計画を検討する。</li> <li>・グループで取り組む課題、個人で取り組む課題など、グループ内で各自が担</li> </ul>

	<p>当する作業や役割を明確にする。</p> <p>【事前学習 60 分】</p> <p>「観光まちづくり演習Ⅰ（調査分析）」など、これまで履修した科目で学習した調査分析手法を振り返る。</p>
第 3・4 回	<p>地域の調査分析（個人作業）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 調査手法を確認した上で、対象地域の特性・課題の調査分析を行う。</li> <li>・ 個人で、調査分析を行い、対象地域の特性・課題を把握する。</li> </ul> <p>【事前・事後学習 120 分】</p> <p>事前に基本的な調査分析手法を振り返る。授業時間内に調査分析の進め方を確認した上で、事後学習時間も活用して調査分析を行う。</p>
第 5・6 回	<p>地域の調査分析（個人作業）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 調査手法を確認した上で、対象地域の特性・課題の調査分析を行う。</li> <li>・ 個人で、調査分析を行い、対象地域の特性・課題を把握する。</li> </ul> <p>【事前・事後学習 120 分】</p> <p>事前に基本的な調査分析手法を振り返る。授業時間内に調査分析の進め方を確認した上で、事後学習時間も活用して調査分析を行う。</p>
第 7・8 回	<p>地域の調査分析（グループ作業）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 対象地域の特性・課題の調査分析を行う。</li> <li>・ 個人で取り組んだ調査分析結果を持ち寄り、グループで確認、比較など、ディスカッションする。</li> </ul> <p>【事前学習 120 分】</p> <p>グループ作業に向けて、個人作業の成果を整理し、まとめる。</p>
第 9・10 回	<p>現地調査の計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ここまでの調査分析の成果を踏まえながら、現地調査の内容を計画する。</li> </ul> <p>【事前・事後学習 120 分】</p> <p>現地調査を行う上で必要な情報を収集し、整理する。</p>
第 11・12 回	<p>現地調査（授業日振替を行う場合がある）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指導教員と助手の安全管理のもと、対象地域で現地調査を行う。</li> <li>・ 調査分析結果と照らし合わせることで、地域の特性・課題について理解を深める。</li> </ul> <p>【事前・事後学習 120 分】</p> <p>事前に現地調査の計画を確認する。現地調査後にグループで現地調査から得た情報を整理する。</p>
第 13・14 回	<p>中間の取りまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ここまでの調査分析結果を発表用にまとめる。</li> <li>・ 中間発表のプレゼンテーション、表現方法をグループで検討する。</li> </ul> <p>【事前・事後学習 120 分】</p>

	これまでの調査分析結果を振り返る。発表練習を行う。
第15・16回	<p>中間発表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで、ここまでの調査分析結果を発表する。</li> </ul> <p>【事前・事後学習 120分】</p> <p>発表練習を行う。中間発表の振り返りを行う。</p>
第17・18回	<p>地域の特性・課題の比較分析の講義</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他地域との比較により、対象地域の特性と課題を把握するため、参考となる地域（以下、参考地域）を抽出し、その概要を把握する。</li> </ul> <p>【事前・事後学習 120分】</p> <p>参考地域に関する文献・資料・データを収集し、整理する。</p>
第19・20回	<p>地域の特性・課題の比較分析（個人作業）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参考地域との比較を通じて、対象地域の特性・課題をさらに分析する。</li> <li>・個人で、情報収集や比較作業を行い、結果をまとめる。</li> </ul> <p>【事前・事後学習 120分】</p> <p>参考地域に関する文献・資料・データを収集し、整理する。グループ作業に向けて、個人作業の成果を整理し、まとめる。</p>
第21・22回	<p>地域の特性・課題の比較分析（グループ作業）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参考地域との比較を通じて、対象地域の特性・課題をさらに分析する。</li> <li>・個人で作業した結果を持ち寄り、グループでディスカッションを行って統合する。</li> </ul> <p>【事後学習 120分】</p> <p>グループ作業に向けて、個人作業の成果を整理し、まとめる。</p>
第23・24回	<p>地域分析の総合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ここまでに取組んだ調査分析の結果、参考地域との比較を踏まえて、地域の特性・課題を総合的に把握する。</li> <li>・個人で作業した結果を持ち寄り、グループでディスカッションを行う。</li> </ul> <p>【事前・事後学習 120分】</p> <p>事前に個人で、これまでに取組んだ調査分析を振り返り、整理する。</p>
第25・26回	<p>最終成果物の作成&amp;最終発表会の準備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで地域の特性・課題を発表用にまとめる。</li> <li>・最終発表のプレゼンテーション、表現方法をグループで検討する。</li> </ul> <p>【事後学習 120分】</p> <p>発表資料の作成、発表練習を行う。</p>
第27・28回	<p>最終発表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで地域の特性・課題に関する分析結果を発表する。</li> </ul> <p>【事後学習 120分】</p> <p>発表の振り返り、学年報告会準備、発表練習、成果物の修正。</p>



第 29・30 回

全体報告会、振り返り

・最終発表会の評価を踏まえて、特に優れた成果物の報告会を学年全体で行う。

・全体報告会と講評を踏まえて、本科目で学習した内容、各自、各グループの最終成果物を振り返る。

【事後学習 120 分】

発表時の講評・他学生の発表を踏まえた課題の再検討、修正した成果物の提出。

授業計画の説明

授業計画で示した各回の内容は、以下の流れで進行する。担当教員ごとに具体的な対象地（例：横浜市、鎌倉市、渋谷区、台東区 等）を設定し、担当教員の指導の下、個人作業とグループでの共同作業を繰り返し、中間発表を経て、成果物を作成する。授業初回の共通のガイダンスでは、観光まちづくりのための 4 つの分野・アプローチで調査・分析することについて詳しく説明する。

- 1) 課題説明・学生グループ分け
- 2) 調査計画の立案
- 3) 地域の調査分析（個人、グループ）
- 4) 現地調査
- 5) 中間発表
- 6) 地域の比較分析（講義、個人、グループ）
- 7) 地域分析の総合
- 8) 最終発表
- 9) 全体報告会
- 10) 振り返り

【調査分析手法・内容】

主に「観光まちづくり演習 I（調査手法）」で学習した調査手法を用いて、観光まちづくりのための 4 つの分野・アプローチ [地域を取り巻く社会の分析]、[地域の空間構造、資源の把握]、[計画や政策の分析・策定・実行]、[地域主体の交流・産業の創出] という観点から、具体的な地域の特性と課題を調査分析する。

具体的には、

- ・調査手法の確認
- ・統計情報の分析
- ・郷土資料の分析
- ・行政資料（政策、計画）の分析

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地図や写真の分析</li> <li>・現地調査</li> </ul> <p>などを担当教員の指導の下、個人とグループで取り組む。</p> <p><b>【個人での調査分析作業とグループでの共同作業】</b></p> <p>地域の調査分析は、教員や助手の指導の下で、個人単位で取り組む。その上で、グループでは、個人の分析結果を持ち寄り、共同作業を通じて、地域の総合的な調査分析を進める。</p> <p>また、自身のグループだけでなく、他のグループが取り組む内容に関する発表をきくことで、対象地域の多様な分析手法の学びにつなげることを期待する。</p> <p>さらに、学生は、他グループへの情報共有や質疑、担当教員への質問等も積極的に行って、全体で多様なアプローチから地域の総合的な分析に取り組んでほしい。</p> <p><b>【中間発表・最終発表・全体報告会】</b></p> <p>中間発表と最終発表は、学生約 60 人、教員 5・6 人、助手 1 人が配置される教室単位に実施し、グループごとに発表する。全体報告会は、学年全体で実施し、最終発表で特に優れた成績を修めたグループが発表する。全学生が共通課題に取り組むが、異なる専門分野のアプローチから多様な分析が行われるため、その様々な成果を学年全体で共有し、観光まちづくりに関連する多様な分野への認識を深めることを期待する。</p> <p>中間発表、最終発表では、観光まちづくりのための 4 つの分野・アプローチという観点から、各グループの成果（地域の調査分析や特性と課題の把握）を評価し、講評する。</p>
授業時間外の学習方法	<p>本科目の地域の調査分析では、これまでに学修した知識や技能を用いるため、各分野・アプローチごとに下記科目の学修内容の復習を推奨する。</p> <p><b>[地域を取り巻く社会の分析] に関する科目</b>  社会学概論、文化社会学、コミュニケーション論、地域と環境の社会学、グローバリゼーション論、社会調査法入門、統計分析の基礎、哲学・倫理学</p> <p><b>[地域の空間構造、資源の把握] に関する科目</b>  まちづくりと観光、地域資源論、博物館概論、保全生態学概論、都市建築史、民俗学概論、統計分析の基礎、プログラミングと数学基礎、地理学概論、神道と環境 I</p> <p><b>[計画や政策の分析・策定・実行] に関する科目</b></p>

	<p>まちづくりと観光、公共政策概論、観光学概論、地方自治概論、国土・都市計画論、地域デザイン論、都市と地域の交通、統計分析の基礎、パブリックデザイン（地域と公共空間）、哲学・倫理学</p> <p>[地域主体の交流・産業の創出]に関する科目</p> <p>まちづくりと観光、観光学概論、観光マーケティング、観光政策・計画論、観光事業論、統計分析の基礎、経営学概論、地域ブランディング論、地域と都市の経済</p>
<p>受講に関するアドバイス</p>	<p>・観光まちづくりのための4つの分野・アプローチを理解し、目的に応じた的確な調査手法を実施できるように、また各々の関心に応じた学修を計画的に進めるため、本科目で取扱う調査手法と関連する下記科目の受講を推奨する。</p> <p>[地域を取り巻く社会の分析]に関する科目 都市とメディアの社会学、ジェンダーの社会学、質的調査法、ソーシャル・イノベーション、観光心理学、神社ネットワーク論Ⅰ</p> <p>[地域の空間構造、資源の把握]に関する科目 風景計画論、レクリエーション計画論、地域遺産論、地域文化創造論、データサイエンス</p> <p>[計画や政策の分析・策定・実行]に関する科目 行財政概論、まちづくり論、農山漁村論、観光行動論、プロダクトデザイン（地域と杉）、運輸・観光実践論</p> <p>[地域主体の交流・産業の創出]に関する科目 観光行動論、ホスピタリティ・マネジメント論、地域の観光情報メディア、旅行産業論、宿泊産業論、ソーシャル・イノベーション、運輸・観光実践論</p> <p>・グループ作業を行うため、特にグループ内での連携をよくとること。</p>

成績評価の方法・基準		
評価方法	割合	評価基準
平常点	70%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題ごとの個人振り返りシートと、学期末のグループ内相互コメントシートの内容を総合的に評価する。(20%)</li> <li>・2つの個人課題の内容、中間発表・最終発表のプレゼンテーションの完成度、質疑等の対応を総合的に評価する。(50%)</li> </ul>
レポート	30%	第30回のまとめ・振り返りをふまえてブラッシュアップしたグループ課題の最終成果物を観光まちづくりのための4つの分野・アプローチから評価する。

教科書・参考文献等			
教科書			
授業内にて担当教員が指示する。			
参考文献			
書名	著者名	出版社	備考
まちの見方・調べ方 地域づくりのための調査法入門	西村幸夫編	朝倉書店	2010年発刊
参考文献コメント			
進捗状況に応じて担当教員が適宜示す。			
参考になるウェブページ			
進捗状況に応じて担当教員が適宜示す。			

科目名	教員名
観光まちづくり演習Ⅲ (構想・提案)	西村幸夫、浅野聡、井門隆夫、石本東生、梅川智也、小林裕和、椎原晶子、塩谷英生、下間久美子、下村彰男、十代田朗、堀木美告、吉見俊哉、米田誠司、石山千代、嵩和雄、金今善、清野隆、大門創、河灵珍、藤岡麻理子、松本貴文、児玉千絵、仲野潤一、楊恵亘、潘梦斐

講義授業	
授業のテーマ	地域の課題解決につながる観光まちづくりの構想・提案をつくる
授業の内容	3年次前期の必修の演習となる本科目は、一連の観光まちづくり演習の総仕上げの演習科目である。歴史、文化、自然等の特性が異なる複数の具体的な地域を対象に、専門分野の教員の指導や対象地域の関係者の助言のもと、グループでの共同作業で実施する。これまでに修得してきた調査・分析手法や講義科目で得た知見を総動員し、グループメンバー及び地域の関係者との議論を重ね、地域が抱える課題の解決につながる観光まちづくりの構想・提案を実践的に立案し、発表を行う。
到達目標	<p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象地域と目的に応じた的確な調査・分析を、計画的に実施できる。</li> <li>・構想・提案づくりの基本的なプロセスを理解し、それを具体的な地域を対象に、実施できる。</li> </ul> <p>【思考・判断】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の特性や課題と課題の背景等の客観的・総合的な分析と、他者との建設的な議論及び共同作業を踏まえ、理念と根拠に基づいた観光まちづくりの構想や提案を具体的に考えることができる。</li> </ul> <p>【技能・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの構想・提案を適切に表現し、他者に伝えることができる。</li> </ul> <p>【関心・意欲】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光まちづくりの構想や提案の多様な展開可能性と、立案の意義と限界を実感する。</li> <li>・実施過程でお世話になった地域の関係者に、一定の成果物をお返しする。</li> <li>・各自が今後深めていきたい関心分野やテーマが見えてくる。</li> </ul>

授業計画	
第1・2回	<p>共通ガイダンス、グループ分け</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の説明（対象地域の概要、最終成果物イメージや参考事例の紹介）を確認する。</li> <li>・対象地域を決めて、共同作業を行うグループをつくる</li> <li>・対象地域の特徴を踏まえた調査計画を検討する。</li> </ul>

	<p>【事前学習 60分】 事前に公表される対象地域概要を通読する。</p> <p>【事後学習 60分】 対象地域の基本的な情報収集を行う。必要な調査を考える。</p>
第3・4回	<p>調査計画の立案（グループ作業）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象地域の特徴を踏まえた調査計画を検討する。</li> <li>・グループ内で各自が担当する作業や役割を明確にする。</li> </ul> <p>【事前・事後学習 120分】 基本的な調査分析手法を復習し、対象地域の基本的な分析を行う。</p>
第5・6回	<p>対象地域の特性と課題分析（グループ作業）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人で取り組んだ基本的な分析結果を持ち寄り、対象地域の特性と課題について、グループでディスカッションを行う。</li> <li>・現地調査の準備を行う。</li> </ul> <p>【事後学習 120分】 現地調査を行う上で必要な情報を収集し、整理する。</p>
第7・8回	<p>現地調査（授業日振替を行う場合がある）（グループ作業）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導教員と助手の安全管理のもと、対象地域で現地調査を行う。</li> <li>・調査分析結果と照らし合わせることで、地域の特性・課題について理解を深める。</li> </ul> <p>【事後学習 120分】 現地調査の結果を整理する。</p>
第9・10回	<p>対象地域の総合的分析・構想の方向性の検討（グループ作業）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現地調査の結果を共有し、対象地域について総合的な分析を行う。</li> <li>・これまでの分析結果と現地調査の結果を踏まえ、観光まちづくりの構想の方向性についてグループでディスカッションを行う。</li> </ul> <p>【事後学習 120分】 地域の調査分析結果を整理し、構想の方向性について検討する。</p>
第11・12回	<p>中間発表の準備（グループ作業）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中間発表へ向けて、対象地域の調査・分析結果と観光まちづくりの構想の方向性を整理する。</li> </ul> <p>【事後学習 120分】 中間発表のプレゼンテーション、表現方法を検討する。発表練習を行う。</p>
第13・14回	<p>中間発表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで対象地域の調査・分析結果と観光まちづくりの構想の方向性を発表する。</li> </ul> <p>【事後学習 120分】 中間発表の振り返り、成果物の修正</p>

	観光まちづくりの構想と提案の立案のために必要な追加調査の検討
第15・16回	追加調査の立案（グループ作業） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中間発表の振り返りを行い、今後の立案の方向性と役割分担についてグループでディスカッション。</li> <li>・ 観光まちづくりの構想と提案立案のために必要な追加調査の検討。</li> <li>・ 現地調査の準備。</li> </ul> 【事後学習 120分】 追加の調査を行う上で必要な情報を収集し、整理する。
第17・18回	追加調査の実施（授業日振替を行う場合がある）（グループ作業） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指導教員と助手の安全管理のもと、対象地域で追加調査を行う。</li> </ul> 【事後学習 120分】 追加調査の結果を整理する。観光まちづくりの構想と提案を検討する。
第19・20回	追加調査結果の分析、観光まちづくりの構想・提案づくり（グループ作業） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 追加調査の結果共有。</li> <li>・ 観光まちづくりの構想と提案の検討、グループでディスカッション。</li> </ul> 【事後学習 120分】 観光まちづくりの構想と提案を検討する。
第21・22回	観光まちづくりの構想・提案づくり（グループ作業） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 観光まちづくりの構想と提案の検討、グループでディスカッション。</li> </ul> 【事後学習 120分】 観光まちづくりの構想と提案を検討する。
第23・24回	観光まちづくりの構想・提案づくり（グループ作業） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 観光まちづくりの構想と提案の検討、グループでディスカッション。</li> <li>・ 最終発表へ向けた準備を行う。</li> </ul> 【事後学習 120分】 最終発表会で使用する資料の作成、発表練習を行う。
第25・26回	最終発表の準備（グループ作業） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループで観光まちづくりの構想・提案を発表用にまとめる。</li> <li>・ 最終発表のプレゼンテーション、表現方法をグループで検討する。</li> </ul> 【事後学習 120分】 最終発表会で使用する資料の作成、発表練習を行う。
第27・28回	最終発表 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 観光まちづくりの構想・提案の発表とディスカッションを行い、教室ごとに優秀発表のセレクションを行う。</li> </ul> 【事後学習 120分】 最終発表の振り返り、成果物の修正、全体報告会の準備を行う。

第 29・30 回

全体報告会、振り返り

- ・ 最終発表会の評価を踏まえて、特に優れた成果物の報告会を学年全体で行う。
- ・ 全体報告会と講評を踏まえて、本科目で学習した内容、各自、各グループの最終成果物を振り返る。

【事後学習 120 分】

発表時の講評・他学生の発表を踏まえた課題の再検討、修正した成果物の提出。

授業計画の説明

担当教員ごとに具体的な対象地（例：横浜市、鎌倉市、渋谷区、台東区 等）を設定し、少人数のグループ単位での共同作業と議論を積み重ねて、観光まちづくりの構想・提案を立案し、発表する。授業初回の共通のガイダンスでは、観光まちづくりのための 4 つの分野・アプローチで調査・分析し、構想・提案を立案することについて詳しく説明する。

- 1) 課題説明・対象地の説明、学生グループ分け
- 2) 対象地の特性と課題の整理
  - ・ 対象地の歴史資料、行政資料、統計データ等の収集、分析
  - ・ 現地調査の企画・実施
  - ・ 現地調査結果の整理及び構想・提案立案へ向けた討議
- 3) 中間発表：対象地の特性と課題の整理及び今後の方針の発表
- 4) テーマ設定、構想・提案の立案
  - ・ テーマ設定、構想・提案の方向性について討議
  - ・ 追加調査の企画・実施
  - ・ 追加調査結果の整理及び構想・提案のブラッシュアップ
  - ・ 構想・提案実現のための行程の検討
- 5) 最終発表
- 6) 全体報告会

【中間発表・最終発表・全体報告会】

中間発表と最終発表は、学生約 60 人、教員 5・6 人、助手 1 人が配置される教室単位で実施し、グループごとに発表する。中間発表会は、多様なアプローチと分析の可能性があること、自身のグループの独自性に気づき、その後の追加調査や構想・提案立案作業に反映させる契機となることを期待する。最終発表会では、構想・提案の多様性と共通性への気づきを得、自身の構想・提案策定プロセスと内容を、客観的に振り返ることを期待する。全体報告会は、学年全体で実施し、最終発表で特に優れた成績を修めたグループが発表する。観光まちづくりの構想・提案づくりに取組んだ多



	<p>様な成果を学年全体で共有する。</p> <p>中間発表、最終発表では、観光まちづくりのための4つの分野・アプローチという観点から、各グループの成果（観光まちづくりの構想・提案）を評価し、講評する。</p>
<p>授業時間外の学習方法</p>	<p>地域の調査分析では、これまでに学修した知識や技能を用いるため、各分野・アプローチごとに下記科目の学修内容の復習を推奨する。</p> <p>[地域を取り巻く社会の分析] に関する科目  社会学概論、文化社会学、コミュニケーション論、地域と環境の社会学、グローバリゼーション論、都市とメディアの社会学、ジェンダーの社会学、社会調査法入門、統計分析の基礎、質的調査法、ソーシャル・イノベーション、哲学・倫理学、観光心理学、神社ネットワーク論 I</p> <p>[地域の空間構造、資源の把握] に関する科目  まちづくりと観光、地域資源論、博物館概論、保全生態学概論、都市建築史、民俗学概論、風景計画論、レクリエーション計画論、地域遺産論、地域文化創造論、統計分析の基礎、プログラミングと数学基礎、データサイエンス、地理学概論、神道と環境 I</p> <p>[計画や政策の分析・策定・実行] に関する科目  まちづくりと観光、公共政策概論、観光学概論、地方自治概論、国土・都市計画論、地域デザイン論、都市と地域の交通、行財政概論、まちづくり論、農山漁村論、観光行動論、統計分析の基礎、パブリックデザイン（地域と公共空間）、プロダクトデザイン（地域と杉）、哲学・倫理学、運輸・観光実践論</p> <p>[地域主体の交流・産業の創出] に関する科目  まちづくりと観光、観光学概論、観光マーケティング、観光政策・計画論、観光事業論、観光行動論、ホスピタリティ・マネジメント論、地域の観光情報メディア、旅行産業論、宿泊産業論、統計分析の基礎、経営学概論、地域ブランディング論、ソーシャル・イノベーション、運輸・観光実践論、地域と都市の経済</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各々の問題意識に応じて、積極的に対象地及び参考地域に足を運ぶことと関連する図書・行政資料・統計情報等の読み込みを推奨する。</li> <li>・グループ単位での積極的な現地追加調査、議論及び発表準備を推奨する。</li> </ul> <p>ただし、その際には、担当教員が指示する安全管理計画に従うこと。</p>
<p>受講に関するアドバイス</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光まちづくりのための4つの分野・アプローチを理解し、目的に応じ</li> </ul>

た的確な調査手法を実施できるように、また各々の関心に応じた学修を計画的に進めるため、本科目で取扱う調査手法と関連する下記科目の受講を推奨する。

[地域を取り巻く社会の分析] に関する科目

コミュニティ論、NPO と市民社会、観光社会学、文化人類学、多変量解析

[地域の空間構造、資源の把握] に関する科目

自然/環境保護行政概論、文化行政・文化財行政概論、世界遺産論、地理空間情報分析

[計画や政策の分析・策定・実行] に関する科目

コミュニティ論、住民参加と合意形成、都市保全論、地域減災論、交通計画、リノベーション論、アートと地域振興、地理空間情報分析、観光危機管理論、文化芸術政策論

[地域主体の交流・産業の創出] に関する科目

世界の観光政策、観光食マネジメント論、観光地経営論、田園回帰論、観光経済論、不動産投資論

・グループ作業を行うため、特にグループ内での連携をよくとること。

#### 成績評価の方法・基準

評価方法	割合	評価基準
平常点	70%	調査・分析・提案・発表フェーズごとの個人振り返りシートと、学期末のグループ内相互コメントシートの内容を総合的に評価する。(35%) 中間発表、最終発表のプレゼンテーションの完成度、質疑等の対応。(35%)
レポート	30%	全体報告会や振り返りを踏まえて、ブラッシュアップした最終発表資料を、観光まちづくりのための4つの分野・アプローチから評価する。

#### 教科書・参考文献等

##### 教科書

適宜資料を配布する。

##### 参考文献

書名	著者名	出版社	備考
まちを読み解く	西村幸夫・野澤康編著	朝倉書店	2017年発行

景観・歴史・地域づくり			
観光計画論 1：理論と実践（観光学全集第 7 巻）	梅川智也編著	原書房	2018 年発行
観光計画論 2：事例に学ぶ（観光学全集第 8 巻）	野倉淳編著	原書房	2019 年発行
<b>参考文献コメント</b>			
・対象地域やテーマ、作業の進捗状況に応じて、適宜示す。			
<b>参考になるウェブページ</b>			
・適宜示すが、対象地域やテーマに関するウェブページや新聞記事等の閲覧を推奨する。			